

国立病院機構熊本医療センター

No.174



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成23年 地域医療支援病院運営委員会開催されました

平成23年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成23年10月31日（月曜）午後4時より当センター会議室で開催されました。協議会の委員は委員長の熊本市医師会会長福島敬祐先生、熊本県健康福祉部健康局長伊藤敏明様、熊本市保健所長大塚博史先生、熊本大学大学院生命科学部部長竹屋元裕先生、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生、熊本市薬剤師会会長村瀬元治先生がご出席いただきました。池井院長より開会の挨拶の後、福島委員長よりご挨拶をいただき直ちに議事に移り、事務局より①紹介率、逆紹介率、②共同診療実績、③救急医療提供実績、④地域医療従事者の資質向上を図るための研修実績などを報告しました。紹介率は一昨年より90%以上を維持しており、また逆紹介率も70%を超え更に増加傾向にあり、委員の先生方にもご満足頂ける内容と評価して頂きました。

当院は国立病院の中でもいち早く急性期病院を志し、急性期特定病院の施設基準の獲得に続いて、平成14年4月1日には、地域医療支援病院の施設として国立病院では全国で初めて県から承認を受け、すでに9年が経過しました。地域医療支援病院は、紹介患者に対する医療提供、および医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、それにふさわしい構造設備を有するとして、承認を受けたものです。

従って、紹介率が重要な要件となり、地域医療支援病院として要求される紹介率は80%です。当院はこの高いハードルをこえ、これ以上の紹介率をこの9年間維持してまいりました。これはひとえに開放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者さんをご紹介頂いている先生方のおかげと深く感謝申し上げます。当院は、今後も患者さんに優しい、24時間いつでも、全科で断らない救急医療をモットーに、地域に根ざした、地域に信頼され、地域に貢献できる地域医療支援病院を目指す所存です。今後ともどうぞ宜しくご指導お願いします。

（副院長 河野 文夫）



熊本市医師会長福島敬祐先生のご挨拶

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



## 「昨今の登山事情」

医療法人 尚和会  
龍田病院  
院長 続 純一

龍田病院の続純一と申します。今から36年前、国立熊本病院精神科で研修を行いながら精神科医としての人生が始まりました。当時の村山英一医長の厳しくも優しいご指導のもと、医学はもとより社会的なことまで多くを教えていただきました。多忙中にも医局にはファミリー的なまとまりがあり、居心地の良い病院でした。その時得られました貴重な財産を糧に、現在も診療に当たっているところです。手短かに当院の紹介を致します。熊本市黒髪の、白川のほとりで自然豊かな環境に立地しています。いわゆる単科の精神科病院で、統合失調症をはじめとし、認知症、うつ病などの診療に力を注いでいます。

さて私の休日ですが、軽い登山を30年このかた続けており、めばしい花でもあればカメラに収めるといった楽しみ方をしています。以前は有名な山でも

人影は多くはなく、山頂は私たちが貸切状態ということもあったのですが、近年は様変わりしています。中高年の登山者が多くなり、特に女性のグループは賑やかで、休憩ポイントや山頂では、昂揚した感情を抑えられないように大きな笑い声やおしゃべりが響いています。昔のイメージで静かな山を求めてきた身には何とも場違いなところに来たようで、そそくさとその場を後にすることになる始末です。しかしこの数年、更なる強者が現れました。韓流パワーです。久住山には日常的に韓国からの団体が登山に訪れるようになってきました。海外遠征のためか昂揚感日本人の比ではなく、しかも多人数であり、その勢いに圧倒されてしまいます。この時ばかりは我が国のおばちゃんグループに頑張ってもらいたくなります。

ささやかな登山ができるのも、いざという時は国立熊本医療センターで重症の患者さんを適切に治療していただくお陰と感謝しています。有難うございます。



左より 続院長、黒木副院長、金山医師、下村医師

## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 中村 敦）

## 熊本市災害医療福祉訓練が行われました。

平成10年より毎年行われている熊本市災害医療福祉訓練が10月29日に行われました。熊本地方を震源とするマグニチュード7.2、震度6弱の地震が発生し、倒壊した建物等により被災した傷病者約150名が病院につめかけるという想定で行われました。自主参集した250名の職員は、本番さながらの真剣な表情で、傷病者のトリアージや診療にあたっていました。模擬傷病者は当院の看護学生が担当し、リアルなメイクをして傷病者になりきった迫真の演技を見せてくれました。自主参集から解散まで約3時間に及ぶ大変実践的で有意義な訓練でありました。

当院は繁華街に隣接している救命救急センターで



あるため、災害時には多くの傷病者がつめかけることが予想されます。当院は災害拠点病院でありますので、多数の傷病者が発生する大規模災害時には、入院患者については通常時の2倍、外来患者については通常時の5倍程度に対応できなくてはなりません。

病気は予防出来ますが災害は予防出来ません。しかし、適切な対応で被害を最小限に抑えることは可能です。いつかこの訓練が役に立つ時が来るかもしれません。  
(救命救急部長 高橋 毅)

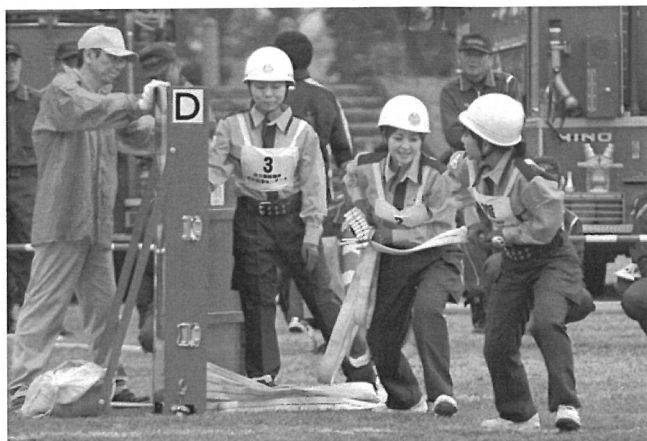
## 準優勝しました!! ~第35回屋内消火栓操法競技大会~

平成23年10月21日(金)第35回屋内消火栓操法競技大会(熊本市消防局 熊本市防災協会主催)がアクアドーム熊本の多目的広場で開催され本院女子チームが初出場ながら準優勝という快挙を成し遂げました。

男子チームは惜しくも入賞こそ逃しましたが練習タイムを上回るタイムを出し大健闘しました。

この大会は屋内消火栓の操作技術の習熟を通し、各事業所の防災リーダーを育成することを目的として開催されています。

今年は、熊本市内50事業所56チームが参加し男子の部、女子の部、混成の部に別れ競技が行われました。本院からは男子チーム、女子チーム各1チームが初出場しました。



チームは3人一組で号令に従いホースを伸ばし放水で標的を落とすまでのスピードと動作そして、士気や規律等を競い合うものです。

選手諸君は、多忙な業務の合間を縫って3週間真剣に練習に励んできました。慣れない動作や号令又操作手順スピードなど求められるため大変な事だったと思います。

わずか20数秒の競技ですが、万が一の時の率先した消火活動、避難誘導などにあたる際の心がけなど防火意識に繋がるものです。

今回、競技大会への参加を通し選手諸君は「チームワークを意識し仲間と連携、協力し事を成し遂げる。」という貴重な経験が出来たことと思います。

又、「自分の職場は自分で守る」という自主防災意識の向上に繋がったものと確信します。  
(救急医療支援業務担当 後藤 達広)

# 病棟紹介〈9〉

## 7北病棟

7北病棟は、脳外科・神経内科・救急科の患者さまの治療・看護を行っています。

救急の入院や、救命救急センターからの転棟が多い病棟です。急性期で病状が不安定であるため、医師との連携を密に図り、異常の早期発見に努めています。嚥下障害を持つ患者さまが多いため、平成23年2月より口腔ケア・摂食嚥下チームを立ち上げ、脳卒中などの患者さまの「口腔ケアの充実と、安全に摂食、嚥下訓練を開始する」ことを目的に週2回のラウンドを開始しました。歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士と協力し、ラウンドの内容も充実してきています。

今後さらに、脳卒中の急性期病院としての役割をはたせるよう努力していききたいと思います。

(7北病棟看護師長 松本メグミ)



7北病棟スタッフ



NCU



スタッフステーション



口腔ケア・摂食嚥下チーム



特A室



特A室患者様専用ラウンジ

(4)

2011

## 診療科紹介 (43)

## 放射線科



医長  
吉松 俊治

放射線診断、IVR

日本医学放射線学会診断専門医  
熊本大学医学部臨床教授



医長  
浅尾 千秋

放射線診断

日本医学放射線学会診断専門医



医長  
荒木 裕至

放射線診断、IVR

日本医学放射線学会診断専門医



医長  
富高 悦司

放射線治療、放射線診断

日本医学放射線学会治療専門医  
日本がん治療認定医機構認定医



医師  
吉田 絵里

放射線診断、IVR、放射線治療

日本医学放射線学会認定医



医師  
徳永 郁香

放射線診断、IVR、放射線治療

日本医学放射線学会  
日本放射線腫瘍学会

IVRでは肝癌、膀胱癌、子宮癌を中心に塞栓術および動注化学療法や、救急症例における腹部骨盤出血の緊急止血術を行っています。侵襲的な経動脈性血管造影は、治療を前提としたIVR症例のみに施行していません。

放射線治療部門には、リニアック、遠隔腔内照射装置 (RALS)、治療計画装置と治療計画用CT (大口徑16列) があり、悪性リンパ腫、乳癌 (乳房温存術後)、頭頸部癌、子宮癌、前立腺癌等の症例を中心に良好な成績をおさめています。当院では小児と成人の骨髄移植が行われており、成人の骨髄移植における全身照射は県内唯一の施行機関です。新しいリニアックの導入により、さらに照射の精度を高めることが可能になりました。今後は体幹部定位照射も視野に入れていきます。

## 診療内容と特色

当院は放射線科全部門における放射線科専門医修練機関です。放射線科スタッフは画像診断専門医3名、治療専門医1名、放射線科認定医1名、放射線科医1名、放射線技師20名で画像診断、IVR (画像診断を用いた経皮的治療)、放射線治療の3部門を担っています。

画像診断部門には、CT装置2台 (128列と64列マルチスライスCT)、MRI-1.5T装置2台、X線テレビ装置 (DR) 2台、核医学検査装置、血管造影装置 (FPD搭載)、心血管撮影装置 (FPD搭載)、乳腺撮影装置、一般撮影装置 (CR装置2台とFPD装置4台) が稼働しています。平成23年6月に心血管撮影装置の更新と動画サーバーの新規導入を行いました。

128列マルチスライスCT (シーメンス社製) にて、3次元CTに時間軸を加えた4次元CTを撮影し、従来の経動脈性血管造影より有用な画像が得られるようになりました。MR血管撮影ではスクリーニングで造影剤を用いることなくきれいな脳動脈の画像が得られています。MR拡散強調像にて前立腺癌等のスクリーニング検査を行っています。

核医学検査では、骨シンチの新しい解析ソフトウェアBONENAVIを用いて、画像の定量評価が可能となりました。現在、骨シンチやCTおよびMRI画像の院外配信はCDによる運用を行っていますが、平成22年4月に稼働し始めた地域医療連携システムを用いて、画像および画像診断レポートの院外Web参照が可能となります。

## 診療実績

平成22年の検査治療件数はCT23700人 (うち救急外来10900人)、MRI 6324人、核医学703人、血管造影 (IVR) 347人です。放射線治療は年間290人 (うち新患250人) でした。

## 研究実績

- 多時相CTAngio (Adaptive 4D Spiral) が診断に有用であった椎骨動脈解離の2例 井上聖二郎 吉田絵里 荒木裕至 浅尾千秋 富高悦司 吉松俊治 山下康行 第170回日本医学放射線学会九州地方会 平成22年2月14日
- 4DCTAが診断に有用であった動脈管開存症の1例 荒木裕至 吉田絵里 浅尾千秋 富高悦司 吉松俊治 第46回日本医学放射線学会秋期臨床大会 平成22年9月19日
- b値3000s/mm<sup>2</sup>を用いた拡散強調画像による大脳白質の描出 浅尾千秋 荒木裕至 吉田絵里 富高悦司 吉松俊治 第171回日本医学放射線学会九州地方会 平成22年6月19日
- Longitudinal Changes of Parotid Glands after 30Gy Irradiation in Patients with Oral Cavity Cancer Treated with Preoperative Conventional Radiation Therapy 富高悦司 荒木裕至 吉田絵里 浅尾千秋 吉松俊治 52nd.ASTRO 2010. 11.2

## ご案内

外来検査予約は放射線科受付096(353)6501(代) (内線3201) に電話で予約した後、専用の画像検査予約ファックス送信票 (診療情報提供書兼紹介状) を医事課へFAX (096-323-7601) もしくは病診連携室へメールお願い致します。画像検査予約ファックス送信票および検査予約の手順と注意事項を病院ホームページの地域連携室に掲載していますのでご利用下さい。冠動脈CTは脈拍低下の前投薬投与をしますので、循環器外来受診の予約をお願い致します。

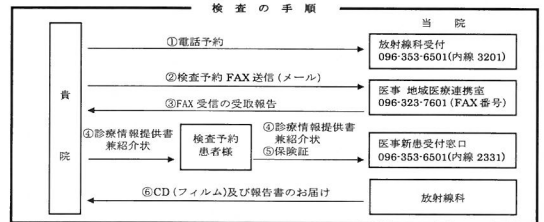
放射線治療外来は予約制で月火木金に新患外来を行っております。事前に放射線治療専門医富高 (内線5812) までご連絡くださいますようお願い致します。

### 放射線科検査予約の御案内

予約できる検査 (画像診断・治療センター：放射線科)

CT・MRI・RI (骨・Ga・レノグラム・心筋・脳血流・肝・肺血流・副腎など)

- ①検査予約は放射線科受付(096-353-6501内線3201)へ電話予約をお願いいたします。予約受付時間は平日の8:30から17:15です。
- ②検査予約ファックス送信票にご記入の上、医事 (096-323-7601) へFAXをお願い致します。
- ③当院よりFAX受信した旨をFAX受取報告書でご報告致します。
- ④患者様には、診療情報提供書(②患者様持参用又は貴院作成様式分)及び保険証を医事新患受付窓口へ提出され受付して頂くようご指導をお願い致します。
- ⑤検査結果はCDもしくはフィルムと共にレポートを添えて貴院へお届け致します。



## 医学シリーズ No. 183

## 皮膚科 (No. 7)

### 最近のトピックス 蜂巣炎 (ほうそうえん)



皮膚科医長  
牧野 公治

当院の皮膚科に入院となる一番多い病気が「蜂巣炎」です。皮膚は表面から表皮、真皮、脂肪織 (皮下脂肪) の3層でできていますが、蜂巣炎は真皮～脂肪織に起こる細菌感染症です (図)。四肢、特に膝より下によく生じます。突然境界がはっきりしない赤み、腫れ、熱、痛みが現れます。

黄色ブドウ球菌や化膿レンサ球菌などが皮膚内に侵入して蜂巣炎になります。どこから入ったか不明なことが多い一方、けがの後、床ずれ、水虫や湿疹などから菌が入り込むことが知られています。

蜂巣炎になりやすい条件もあります。むくみ、血流の滞り、免疫不全などです。また糖尿病の方は免疫力が低下して菌と戦う力が弱まる、血管が冒されて血の巡りが悪くなり傷ができやすくて治りにくい、痛みが分かりにくくなり発見が遅れる、など蜂巣炎について悪い条件が重なっています。糖尿病の治療はとても大事です。

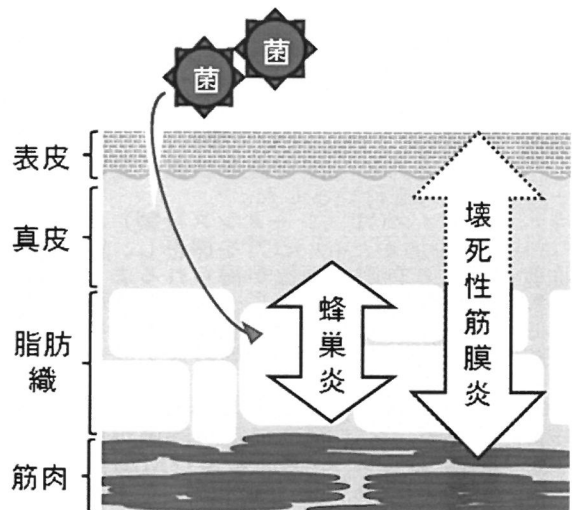
蜂巣炎は先程の症状や全身症状、血液検査などで診断します。皮膚に傷があれば菌の検査や画像検査も行います。治療は、軽症なら抗菌薬を飲みながら通院、重症なら入院して抗菌薬を点滴するのが基本です。黄色ブドウ球菌が主な原因菌なのでそれに有効な抗菌薬 (ペニシリン系やセフェム系など) を用います。

一方、化膿レンサ球菌や酸素なしでも繁殖する嫌気

性菌により、また糖尿病など基礎疾患がある方では筋肉を包む膜も冒される壊死性筋膜炎、血流に菌が入り込み全身症状を起こす敗血症へ移行することがあります。壊死性筋膜炎では血ぶくれができたり皮膚が死んで変色したりします。画像検査で病変の内部を調べ、血液内の細菌を検査したりしますが、病変部を切り開いて痛んだ組織を取り除く「デブリドマン」が重要になります。それでも追いつかない場合は手足を切断せねばならない場合もあります。

敗血症では抗菌薬の大量投与を中心に、全身の集中治療を行います。最近ではプロカルシトニンという、細菌感染による敗血症で増えるホルモンを測定したりもします。当院では1時間程で検査でき、敗血症の早期診断に役立てています。

蜂巣炎は前触れなく発症することも多いですが、基礎疾患などを治療することでかかる確率を減らしたり重症化を防ぐことが可能です。日頃の健康増進に努め、蜂巣炎かな?と思われたらまず近くの皮膚科へおいで下さい。そして重症の場合は当院を紹介受診していただければすぐ対処いたします。



皮膚の構造と感染部位

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ60回



### 肝炎ウイルス感染患者における造血障害の骨髓像からのアプローチ

臨床検査科血液主任 松本恵美子

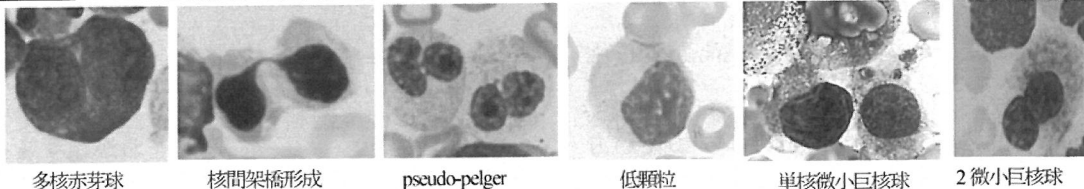
当院における骨髓検査は年々増加しており、現在年間1000件を超えます。新規患者の疾患内訳でもMDSおよび疑いを持った例が群を抜いており、次に特定の血液疾患と診断されなかった例が続きます。私たちが最近注目していることは、C型肝炎と血液疾患との関係です。C型肝炎抗体陽性患者のうち骨髓検査を施行した疾患内訳でMDS及び疑いをもった例は、360件中21件で5.8%、特定な血液疾患ではないと判断したものが151件中11件7.3%でした。全体からすると数%ですが、C型肝炎の方からみると、骨髓検査をしたC型肝炎抗体陽性者の43.8%がMDSもしくは類似の形態異常を有していました。また、特定の血液疾患とはいえないものの、若干の形態異常は有していたすなわち形態的グレーゾーン（22.9%）を合わせると約66%で何らかのMDS類似の形態異常を有していました。

MDSは骨髓異形成症候群の略で、無効造血を有する前白血病状態とも考えられています。無効造血のため末梢血の検査値では、1系統以上の血球減少がおり、そのうち一部の症例は白血病に移行する疾患群です。de novo MDSとsecondary MDSに分けられ、特徴的な形態異常を認めます。C型肝炎患者で造血障害を合併した症例にも単一あるいは複数血球系にMDS

類似の形態異常を伴う例があり、MDSとの鑑別に苦慮する症例に遭遇しています。

今回、造血異常を合併したC型慢性肝炎と診断が確定したMDSのそれぞれの臨床データと骨髓像を比較検討することで、C型肝炎症例に認めた造血細胞の形態異常が、単なる肝障害もしくはその他の要因（抗ウイルス剤、肝硬変、脾腫など）によるものか、あるいはC型肝炎に特徴的であるのか、また、C型肝炎に特徴的であるなら、de novo MDSとの形態学的な相違、さらにMDS（将来的な白血病へのリスクを有する）の可能性などについて可能な限り明らかにしたいと考えています。

実際にMDS疑いのある症例の骨髓形態を比較検討し、さらに、細胞化学染色、骨髓クロットによる病理学的検索、必要に応じて、血液と骨髓血のウイルスをReal Time PCR法やin situ PCR法にて測定比較することで、主観的形態所見に客観性をプラスできればと考えています。症例が集まった時点で、数名の鏡検者により、詳細な異形性の割合を割りだしていこうと思ひ、現在、血液内科や消化器内科に協力していただき、症例を集めている段階です。



多核赤芽球

核間架橋形成

pseudo-pelger

低顆粒

単核微小巨核球

2微小巨核球

MDSの可能性が高いといえる、形態異常  
(当院における2007年～2009年度にMDSと診断された骨髓像集計結果より)

## サンアントニオ市ベア郡医師会来院報告

この度、熊本市と姉妹関係にある米国サンアントニオ市のベア郡から、医師会御一行が来日しました。この医師会の交流は20年前に始まり、医師会員とその家族が毎年交替でそれぞれの国を訪問して、両市の友好を深めています。

熊本に到着した翌日には、まず新築の熊本市医師会館を訪問し、そして当院には熊本市医師会豊田徳明理事長がご同行され、皮膚科医ディール・ドットソン夫妻、病理医ジェイムス・ハンフレイス医師、そして内科医アシスタントであるローランド・ラミレス氏が来院しました。河野副院長の表敬挨拶と熊本医療センター概要紹介に続き、皮膚科医長の牧野先生、病理診断科の村山先生、そして武本のグループに別れて院内案内と意見交換を行ないました。その後、他のメンバーも加わり、一行は熊本大学医学部附属病院、済生会熊本病院へと移動して施設見学を続けました。米国でも高齢化が進んでいますが、死因を比較してみますと日本では悪性腫瘍と自殺による死亡者が多いよ



うです。また看護師の専門性が高くホスピスでの死亡確認や他の医療行為を行なっていること、その一方で語学力の高いフィリピンなど外国からの看護師が増えていること等の情報も得ることができました。今後も医療を通じて、両国の国際交流に貢献できればと考えております。

(臨床研究部特殊疾病研究室長 武本 重毅)

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 **古閑 悠輝**



こんにちは。研修医1年目の古閑悠輝と申します。季節はすっかり秋になり肌寒い季節となりました。しかしながら当院の空調設備は素晴らしく、季節に関係なく快適な日常を送らせていただいています。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋と色々ありますが仕事の秋はないようで、なかなか寒くて布団から出られない日々を送っております。

さて研修生活も半年ほど経ち、2年間の研修も4分の1を終えました。今まで回った科は外科、呼吸器内

科、救急部で、現在血液内科を回っています。

外科では実際手術に入らせてもらい、様々な手技を経験させていただきました。特に縫合はかなりさせていただいて、救急外来での傷の縫合などためらわずにすることができました。

呼吸器内科では、一般的な市中肺炎、喘息から気胸、肺癌まで様々な疾患を見せていただきとても勉強になりました。抗生剤の使い方なども勉強になりました。そして誤嚥性肺炎の多さに驚きました。

救急部では科を問わず様々な症例を経験できました。重症例も多く経験し、救急での措置を多く学べました。またルートをとったり、血ガスをとったり基本的な手技も学ぶことができました。

現在の血液内科では様々な血液疾患の治療から骨髓抑制の患者の状態管理など学ばせていただいています。

また当院での研修では夜勤があり、断らない医療ということで多くの症例が経験でき、日常の研修で得た知識や手技を実戦で活かせることができます。

まあ色々大変な部分も多くある研修生活ですが合間には酒を飲んだり、スポーツしたり、たまの休みに出かけたりとそれなりに人間らしい生活を送っております。

### 臨床研修医

1年次 **梅田 枝里**



こんにちは。研修医1年目の梅田枝里と申します。島根大学を卒業し、4月に研修が始まってからあっという間に半年が経ちました。私は消化器内科からローテートが始まり、外科、呼吸器内科とまわり現在は麻酔科でお世話になっております。

研修医になって初めてまわった消化器内科では右も左もわからないなか、指導医の先生にカルテの使い方やサマリの書き方などの事務的なことから、看護師さんとのやり取りの大切さ、患者さんとの接し方など医師として働くうえで必要なことをたくさん学ばせていただきました。また、エコーや内視鏡などの手技も根

気よく指導していただき大変充実した2か月間でした。

外科では消化器内科の時に診ていた患者さんが手術になったり、消化器内科との合同カンファレンスなど、同じ疾患を違う角度から見ることができとても勉強になりました。また、術前の検査や術後の管理なども学ぶことができました。縫合や開腹など外科ならではの手技も経験することができました。

呼吸器内科では、抗生剤やステロイドの使い方、末期がんの疼痛管理などを勉強させていただきました。手技ではCVカテーテル挿入やトロッカーカテーテル挿入などを学びました。急患も多く、病歴聴取や患者の家族への説明の大切さなども学ぶことができました。

現在麻酔科では気管挿管、脊髄くも膜下麻酔などの手技や術中管理などを勉強させていただいています。

今後は神経内科、救急をまわる予定です。まだわからないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがこれからも日々成長していきたいと思っていますので今後ともご指導の程よろしくお願いたします。

### 臨床研修医

1年次 **岩田 康伸**



こんにちは。研修医1年目の岩田康伸と申します。福岡大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修が始まり早くも半年が経ちました。ようやく病院の雰囲気やシステム、生活のリズムにも慣れてきました。しかし、まだまだ至らない点が多く、圧倒的な知識不足のため皆様に多大なご迷惑をお掛けし、反省を繰り返す日々を送っております。

私は、4月より腎臓内科、麻酔科、血液内科の順にローテートさせていただきました。腎臓内科では、まだ右も左も分からず不安だらけのなか、疾患や透析に関してだけではなく、医師として心掛ける事や院内シ

ステム、様々な状態の患者さんとどう接していくかという基本的な部分から数多くの事を学ばせていただきました。

麻酔科では、気管挿管やルンバール等の手技だけでなく、術中の麻酔管理の方法、いかにして術中・術後の患者さんの負担を減らすようコントロールしていくかを学びました。

当院の血液内科では骨髓移植を盛んに行っており、移植前処置や移植後の管理を学ぶことができました。当院のような救急を中心とした病院ではめずらしく、長期入院や繰り返し入院されている患者さんも多くいらっしゃったので、いかにして患者さんに寄り添い病氣と闘っていくか大変勉強になりました。

現在、私は救命救急部をローテートしており、様々な疾患の患者さんが次々と運ばれてくるなか、手技だけでなく、瞬間的に的確な判断を下すため、どのような知識をつけていけばよいのかを学ばせていただいています。

研修生活の中で学ばなければならない事は数多くありますが、一つ一つしっかり習得していけるよう努力していきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



# ■ 研修のご案内 ■

## 第124回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成23年12月15日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 「典型的な亜急性甲状腺炎の症状を呈した1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

嶋田さやか、梅崎直紀、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

### 2. 「胆石の術前血糖コントロールのため入院し、経過中に右肺異常を指摘された2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

梅崎直紀、嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

## 第155回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年12月19日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 胸部レントゲン読影

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 「循環器内科からの肺胞出血の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

平田 快紘

### 4. ミニレクチャー「亜急性甲状腺炎について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

嶋田さやか

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

## 第17回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第17回国立病院機構熊本医療センター医学会が2012年1月14日（土）に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をフロッピー、CDまたはUSBに入れて下記宛ご送付頂くか、e-mailにてご送付下さい。多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2011年12月9日（金）

- 抄録の文字数は全体（演題名、所属、発表者、共同演者、本文）で600字以内にしてください。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそって記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りします。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀 克夫

TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519 E-mail:scott@kumamoto2.hosp.go.jp

# 2011年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研修室	その他
1日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
2日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
3日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修 「フィジカルアセスメントの基本と実践」		
5日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
8日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
9日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
10日(土)	14:00~16:00 第234回 滅菌消毒法講座 「シンポジウム ～整形外科手術の貸し出し器械の洗浄と滅菌～」 熊本機能病院麻酔科部長 矢野 敏之 熊本大学医学部附属病院中央材料部部長 泉谷 智子 他		
12日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
13日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
14日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
15日(木)		19:00~20:45 第124回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
16日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
17日(土)	14:00~16:00 公開肝臓病教室 「もっと知りたい肝臓の話 ～肝臓で広がる地域の和～」		
19日(月)	19:00~20:30 第155回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
20日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
22日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
26日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
27日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
28日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)